

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380636

研究課題名(和文)人本主義企業をめざす管理会計の研究—付加価値管理会計の展開—

研究課題名(英文)Management Accounting for Human-oriented Company

研究代表者

水野 一郎 (MIZUNO, ICHIRO)

関西大学・商学部・教授

研究者番号：70174034

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：京セラとハイアールの研究を通して日本の管理会計を解明するためには、その基盤である日本的経営を改めて研究する必要性を認識した。そのため日本資本主義の父と呼ばれ、多種多様な企業の設立に関わってきた渋沢栄一の事跡と思想をまず調査・研究し、渋沢栄一が提唱した「論語と算盤」や「士魂商才」が日本の経営者に重要な影響を与えていることがわかった。出光興産の出光佐三やパナソニックの松下幸之助、京セラの稲盛和夫の経営思想や経営管理システムも考察し、人を大切にする経営理念と事実上付加価値を中軸とする管理会計の重要性を明らかにした。同様なことは伊那食品工業や未来工業、日本経営などの企業調査でも理解できた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was research of management accounting based on Japanese management. It was based on the result of the comparative study of Haier and Kyocera. The management thought focused on an employee was a central philosophy of once Japanese management. I named such a company the "human-oriented company".

Moreover, in this research, I decided to consider Japanese management historically. Having inquired initio are the investigation and research of Eiichi Shibusawa's vestige and thought called the father of Japanese capitalism. He has been concerned with establishment of a variety of 500 or more companies to Meiji Era. His philosophy has had influence important for a Japanese manager. And I also considered the management thought and the business management system of Konosuke Matsushita of Panasonic, and Kazuo Inamori of Kyocera and clarified importance of the management through figures which makes management accounting with the management concept which values people.

研究分野：会計学

キーワード：人本主義 日本的経営 付加価値管理会計 アメーバ経営 松下幸之助 渋沢栄一 中小企業 ハイアール

1. 研究開始当初の背景

本研究は、「ハイアールと京セラの管理会計システムの比較研究」(科学研究費基盤研究C、2011年～2013年)という研究課題の最終年度に、科学研究費の前年度応募によって採択された研究である。ハイアールと京セラの比較研究では、ハイアール自体が日本的経営に近づいてくるという変化もあって筆者の問題意識は、両者の異質性よりもその共通性に関心を持ち、伊丹敬之教授がかつて日本の経営の特徴として主張された人本主義の普遍性に目を向けることの重要性を再認識してきた。

そのため上記の研究課題で一定の成果を収めた段階において、ハイアールと京セラの比較研究というだけにとどまらず、その共通の土台を考察し、その普遍性を探究することが必要だと考え始めた。この共通の土台とは、ヒト作りと労使協調、家族主義を掲げ、従業員を重視する人本主義企業システムであった。そこにおける業績評価と管理会計システムの核心は利益ではなくて付加価値が業績指標として論理的には重視されるはずである。そのためこれまでの研究の成果を踏まえて「人本主義企業をめざす管理会計 付加価値管理会計の展開」という研究課題のもとで研究の再構築を決意し、研究の発展を願う立場から新たに応募したのであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、筆者が長年研究してきた付加価値管理会計を基礎としつつ、この間の科学研究費を受給して取り組んできたハイアールと京セラの比較研究の成果を踏まえて新たな構想の下で発展させることであった。ハイアールの研究は、ある意味で日本の経営の研究でもあった。ハイアールの CEO である張瑞敏氏は、松下幸之助氏や稲盛和夫氏の経営理念や組織運営をきわめてよく研究しており、その経営理念と戦略に「ヒトづくり」と人的資源の重要性を強調するようになってきたのである。また京セラのアメリカ経営は、中国でも注目され、稲盛和夫氏の盛和塾の会員も急速に増加し、アメリカ経営の導入も広がってきている。

こうした「ヒトづくり」と従業員重視の経営思想はかつての日本の経営の中心的な理念であり、伊丹敬之教授によって「人本主義企業」と名付けられたものであった。

本研究は中国でも注目されてきた人本主義企業をめざす管理会計を探求するものであった。

3. 研究の方法

研究の方法としては、まず第1に人本主義と日本的経営および付加価値管理会計に関するこれまでの先行研究を歴史的に探索し、文献的に収集・整理することであった。

次に日本において規模を問わず日本的経営を展開している典型的な企業を訪問し、インタビュー調査を実施することであった。また研究の継続性もあり、引き続き中国現地のハイアールやその他の企業についても可能な限り訪問し、インタビュー調査を実現させることであった。調査方法は半構造化調査によるものであった。

そして最後にこうした作業を踏まえて学会や研究会で研究結果を発表し、積極的にこの分野の研究者との意見交換を実施することであった。

以上のように本研究の研究方法は、文献研究とインタビュー調査、研究交流を中心として理論的かつ定性的によって研究課題の実態を明らかにすることであった。

4. 研究成果

本研究の初年度である2014年度においてはまず人本主義と日本的経営に関するこれまでの先行研究を歴史的文献的に整理し、各種資料や論文、著書も新たに収集してきた。そして日本資本主義の父と呼ばれ、「論語と算盤」を理念に掲げ日本の経営の基盤形成に尽力してきた渋沢栄一氏の記念館(東京)、「人間尊重経営」を標榜し独特の経営スタイルを貫いてきた出光興産の出光佐三氏の記念館(門司)、「モノづくりの前にヒトづくり」を提唱し、戦後の日本の経営の代表とされるパナソニックの松下幸之助氏の歴史館(大阪)にも足を運び、各種資料の補足的な調査も行ってきた。

またこうした研究の過程で日本生産性本部と生産性運動が人本主義と日本的経営の確立にあたって重要な役割を果たして来たことにも注目し、日本生産性本部と地方の生産性本部(沖縄、北海道、九州、大阪)を訪

問し、意見交換、インタビュー調査も実施してきた。さらに多くの日系企業が進出している中国上海を訪問し、日系企業関係者（日機装、三菱商事、三和シャッター、ニッサンなど）と意見交換も行い、人本主義と日本的経営の普遍性について考究してきた。

これらの研究の一端は、「市場経済と倫理論語と算盤一」（第5回復旦・関大経済フォーラム）、「人本主義管理会計の構想」（会計学サマーセミナーin九州2014）で報告し、さらに復旦大学日本研究センターから招聘を受けた第24回国際シンポジウムで「日中経済交流の課題と展望 松下幸之助の足跡を中心にー」というテーマで講演し、また日本生産性運動との関わりについては、日本財務管理学会第39回秋季全国大会において「日本における生産性運動と人本主義経営」というテーマで研究報告をおこなった。

2015年度では、前年度の研究において取り組んできた人本主義と日本的経営に関する先行研究の歴史的・文献的な整理を引き続き実施し、各種資料や論文、著書も新たに収集してきた。それに加えて大企業だけではなく、中小企業、中堅企業において「人を大切にす経営」すなわち人本主義経営をめざしている企業にも焦点を当てて研究してきた。周知のように我が国では企業の99.7%が中小企業であり、その従業員数も大企業の2倍以上であり、社会的には多くの雇用を担っているのである。

そのため2015年度では中小企業、中堅企業の実態を把握するため、中小企業に関する先行研究、各種資料をフォローし、いくつかのインタビュー調査も実施してきた。これらの研究の一部については、論文（「中小企業の管理会計に関する一考察」として公表し、また管理会計学会全国大会で研究発表をしてきた。インタビュー調査で印象深いのは6月に訪問した未来工業株式会社であった。すでに同社は資本金70億円で名古屋証券取引

所市場第2部に上場されているため、中小企業とはいえないが、「人を大切にす経営」をめざしている。同社では年間140日の休日、残業禁止、育児休暇は最長3年、全員が正社員、定年を70歳に引き上げ60歳以降も給料は下げないなど従業員に配慮した経営が行われていた。

2016年度においても資料の収集と文献研究は継続して行い、インタビュー調査も前年度に訪問できなかった関係企業や工場を訪問してきた。日本生産性本部の設立に至る経緯や初期の活動について日本生産性本部の各年史資料を参照し、日本生産性本部の活動内容がきわめて多岐にわたっていたことがわかってきた。特に中小企業に対する日本生産性本部の理論的・実証的研究は、これまであまり取り上げられることがなかった。人本主義経営や日本的経営は、大企業だけではなく、中堅、中小企業においても「人を大切にす経営」として一部では定着して展開されている。寒天メーカーとして有名な伊那食品工業は、パナソニックや京セラ以上に人本主義的な経営を進めていた。2014年9月に「人を大切にす経営学会」が誕生したが、そこでの表彰制度は中堅、中小企業経営者に勇気を与えており、そのいくつかの企業も訪問してきた。とくに日本は200年以上の長寿企業が世界のどこよりも多いことで有名であるが、短期的な利益の追求ではなくて家族主義的経営をベースにした長期的・持続的経営が長寿を可能にしたように思われるが、この長寿企業の研究も進めてきた。

最終年度である2017年度では、前年度までの研究において取り組んできた人本主義と日本的経営に関する先行研究を最終的に整理してきた。と同時に最終年度では大企業だけではなく、中小企業において「人を大切にす経営」すなわち人本主義経営をめざしている企業の研究に重点をおいて研究してきた。そのため2017年度では中小企業に関

する先行研究、各種資料をフォローし、いくつかのインタビュー調査を実施してきた。

これらの研究成果の一部については、後掲の論文「人本主義に基づく中小企業の管理会計」と題して公表し、中小企業会計学会全国大会で発表してきた(9月7日)。またそれに先だって専修大学商学部では学生向けに講演をし(6月14日)、会計学サマーセミナー in 九州でも研究発表をし(8月9日)、意見交換を実施してきた。さらに第22回日中社会経済国際シンポジウムでも「人本主義に基づく経営と会計 - 人本主義管理会計の可能性 - 」と題して研究報告し、中国の研究者とも交流してきた。また中国現地には安徽省と湖南省をそれぞれ訪問し、安徽省では定点観測としてハイアールの合肥工場を再訪する(6月2日)と共に合肥工業大学において「以人為本経営与中小企業」のテーマで講演を行った(6月1日)。湖南省では日系の湖南平和堂を訪問し(10月26日)、インタビュー調査を実施した。湖南平和堂は日本の平和堂が中国に進出した子会社であり、従業員を大切にする会社としてよく知られた企業であった。また湖南大学と湘潭大学において「日本の非営利組織現状与対策研究」(10月26日と27日)のテーマで講演した。中国でも中小企業の活性化はきわめて大きな課題となっており、また日本の人本主義経営やNPOについての関心も高かった。NPOにおいても人本主義的な人間本位の経営と付加価値指標に基づく管理会計は重要なのである。

さらに2017年度には日本生産性本部において新しく設置された「新たな付加価値分析に関する研究会」の座長として研究会活動に貢献してきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

水野一郎、人本主義に基づく中小企業の管理会計、関西大学商学論集、査読無、第62巻第2号、2017、91-107

水野一郎、付加価値会計の総合的研究、社会関連会計研究、査読無、Vol.28、2016、59-70

水野一郎、中小企業の管理会計に関する一考察、関西大学商学論集、査読無、第60巻第2号、2015、23-41

水野一郎、価値多様化と管理会計 人本主義管理会計の可能性、会計、査読無、第187巻第2号、2015、1-15

水野一郎、「日本における生産性運動と付加価値会計」(査読あり)、商学集志(日本大学商学部)、査読有、第84巻第3・4号、2015、123-136頁

〔学会発表〕(計13件)

水野一郎、人本主義に基づく経営と会計 - 人本主義管理会計の可能性 - 、第22回日中社会経済国際シンポジウム、久留米大学(福岡県久留米市)、2017年11月11日

水野一郎、現代中国会計の多面的・総合的研究 歴史的・比較制度的分析を踏まえつつ、日本会計研究学会第76回大会スタディ・グループ(研究代表:水野一郎)中間報告、広島大学(広島県広島市)、2017年9月22日

水野一郎、「中小企業会計における管理会計」中小企業会計学会第5回全国大会研究委員会(研究代表:水野一郎)中間報告、熊本学園大学(熊本県熊本市)、2017年9月7日

水野一郎、人本主義に基づく中小企業の経営と会計 - 人本主義管理会計の可能性 - 、会計学サマーセミナー in 九州、九州大学(福岡県福岡市)、2017年8月9日

水野一郎、中小企業における管理会計の総合的研究、日本管理会計学会スタディ・グループ最終報告(研究代表:水野一郎)日本管理会計学会2016年度全国大会、明治大学(東京都)、2016年9月1日

水野一郎、付加価値会計の総合的研究、日本社会関連会計学会スタディ・グループ

最終報告（研究代表：水野一郎） 亜細亜大学（東京都武蔵野市） 2015年10月24日

水野一郎、中小企業における管理会計の総合的研究、管理会計学会スタディ・グループ（研究代表：水野一郎）中間報告、日本管理会計学会 2015年度全国大会、近畿大学（大阪府東大阪市） 2015年8月30日

水野一郎、日本における生産性運動と付加価値会計、国際戦略経営研究会関西支部、立命館大学梅田キャンパス（大阪府大阪市） 2015年2月23日

水野一郎、日本における生産性運動と人本主義経営、立命館大学（京都府京都市）日本財務管理学会第39回秋季全国大会、2014年11月29日

水野一郎、日中経済交流の課題と展望 松下幸之助の足跡を中心に一、上海市（中国）復旦大学日本研究センター第24回国際シンポジウム、2014年11月1日

水野一郎、付加価値会計の総合的研究、スタディ・グループ中間報告、日本社会関連会計学会第27回全国大会、関西大学（大阪府吹田市） 2014年10月4日

水野一郎、人本主義管理会計の構想、会計学サマーセミナーin九州 2014、長崎県立大学（長崎県佐世保市、2014年8月11日

水野一郎、市場経済と倫理 論語と算盤一、上海市（中国）、第5回復旦・関大経済フォーラム基調報告、2014年6月21日

〔図書〕（計5件）

水野一郎、関西大学会計学研究室編、簿記システムの基礎 第5版、国元書房、142、有価証券と固定資産取引、77-84、2017

水野一郎、上總康行・長坂悦敬編、ものづくり企業の管理会計、中央経済社、217、中国におけるものづくり企業の管理会計－ハイアールを中心として－、149-172、2016

水野一郎、笹倉淳史・水野一郎編、アカウントティング（5訂版）同文館出版、220、会計情報と利益管理、121-136、2015

水野一郎、関西大学経済・政治研究所東アジア経済・産業研究班編、東アジア経済・産業の変容（調査と資料第113号） 関西大学経済・政治研究所、市場経済の倫理 論語と算盤 、185-204、2015

水野一郎、関西大学経済・政治研究所東アジア経済・産業研究班編、東アジア経済・産業のダイナミクス、関西大学出版部、

日中経済交流の課題と展望 松下幸之助の足跡を中心に一、95-115

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水野 一郎 (MIZUNO, Ichiro)

関西大学・商学部・教授

研究者番号：70174034